

1. 教育の責任

語学学習の基本は、4技能「読む・書く・話す・聞く」である。4技能をバランスよく学ぶことで自分自身の弱点強化につながり、得意分野のさらなる成長にもつなげられると考える。また、日本で生活をする留学生は日本人とのコミュニケーション力を養うことが重要であり、自分の言葉で自分の意見や気持ちを産出できる能力向上や日本文化や他国の文化の理解を深めることでコミュニケーション能力向上の一助になることを目指したい。

2. 教育の実施における理念

本科目は、日本語別科の留学生を対象に、日常会話、クラス内でのスピーチ、ディスカッション、発表について学習し、習得することを目標としている。日本で生活する際に最も重要なコミュニケーション能力の向上を目指し、進学者は大学等での活動に対応できるスキルの習得、就職者は職場での安心・安全なやり取りのスキルの習得を目指すものとする。クラス内は日本語レベルの異なる学生が混在しているため、授業で互いに教え合い、学び合うことの大切さを知ってほしいと考えている。

また、授業では、学生が積極的に発言できる環境を作り、安心して学べる場を提供したいと考える。授業内外で学生が疑問に思ったこと、新たに知ったことなどを全員と共有し、その中から日本語のレベル向上に必要な要素は出来る限り授業に取り入れたい。

3. 教育の方法

指定のテキストはなく、他科目のテキストのトピックや適宜必要な会話場面を設定し、クラス内での会話練習を行った。発表の活動については、発表のテーマを決め、グループで調べ学習を行い、学内の図書館や市内の博物館、資料館などを訪れた後にアンケート用紙を作成し、学内外でインタビュー調査を行った。発表をするという活動だけではなく、発表までの過程に学内や地域の日本人と

実際に会話をする機会を設けることによって、日本人とコミュニケーションができたという学生の達成感を得られる工夫を行った。基本的には、発表時は発表内容を全て覚えて発表することとした。

4. 教育の成果

成績は以下の通りである。

＊成績

秀:2 優:14 良:4 可:0 不可:0 平均 89.2 点

評価は、学期末の発表と会話試験を、ルーブリックを用いて評価した。

学期末の発表は、グループで行い、グループ内の共通評価(発表自体の構成、内容の説得力など)と個人評価(発音、表現力など)に分け、2名の教員が採点を行った。

学期末の会話試験は、会話試験実施教員が応答力、理解力、語彙の豊かさ、発音などを5段階で評価した。

発表のように自分で調べ、考えたことを覚えて発表することは練習の成果が見られたが、会話のように流動的なコミュニケーションにおいては日頃から積極的に発言ができる学生の成績が非常に高く、授業内や日常的に日本語での会話が少ない学生は評価が低くなった。

5. 目標

今後の課題としては、学生の会話レベルが授業の点数のみでの評価になっている点の改善である。JFスタンダードのA1～C2レベルの6段階で会話能力を示すことができれば、学生が対外的に自身の会話レベルを提示することが可能となる。そのためには、試験の内容の見直しとルーブリックの見直しも必要となる。今後、令和8年度に向けて、授業内容も含め、見直しを行いたい。